

さようなら原発1000万人署名に協力してください。

呼びかけ 内橋克人 大江健三郎 落合恵子 鎌田 慧
坂本龍一 澤地久枝 瀬戸内寂聴 辻井 喬 鶴見俊輔

3月11日の大地震によって、東京電力の福島第一原子力発電所が破壊され、原子炉は炉心溶融（メルトダウン）を起こし、高濃度の放射性物質が大気・海水・土壤に拡散してしまいました。

福島では多くの人々が被ばくし、関東一円でも農産物から放射能が検出されています。事故を起こした原子炉は、未だに停止させることすらできていません。

しかし電力会社や経済産業省、新聞やテレビなど、原発の利権に群がる人々は、「原発は安全だ」とくり返しています。日本政府は、今後も原子力発電を維持するとしています。

原発で事故が起これば人間には制御が不能です。大きな悪影響を人間や自然に及ぼします。また政府は正確な情報を、私たちには伝えていません。

私たちは、原子力発電所の停止を求めて、1000万人の署名を集めています。私たちの要求は、以下の3項目です。未来の子どもたちのために、皆さんも協力してください。

1. 新規原発建設計画の中止。
2. 浜岡からはじまる既存原発の計画的廃止。
3. もっとも危険なプルトニウムを利用する「もんじゅ」、
「再処理工場」の廃棄。



イタリアが、停止していた原子力発電の再開について国民投票を行い、反対が九割を占めました。それに対して、自民党の幹事長が、「あれだけ大きな事故があったので、集団ヒステリー状態になるのは心情として分かる」と語りました。イタリアで原子力計画が停止したのは25年前、チェルノブイリ事故がきっかけでした。それから長く考え続けられた上で、国民投票で決めることになったのです。その段階で、福島の事故が起こったのです。

「反原発というのは簡単だが、生活をどうするのかということに立ち返った時、国民投票で九割が原発反対だから、やめましょうという簡単な問題ではない」と幹事長は言ったそうです。原発の事故が、簡単な問題であるはずはありません。放射性物質で汚染された福島の広大な土地を、どのように剥ぎとるか、どう始末するのか。内部被ばくしている多くの子どもたちの健康を、どう管理するのか。

いま、はっきりしたことがあります。もうイタリアでは、人間の命が原発に奪われることはない。しかし日本人は、これからも原発事故を恐れなければならないということです。

私たちは、抵抗する意思を持っている。その意思を、政党の幹部や、経団連の実力者たちに思い知らせる必要があります。私たちに何ができるのか。民主主義の集会、市民のデモしかないのです。しっかりやりましょう。

大江健三郎
さようなら原発5万人集会（9月19日・明治公園）での発言